

PR

Public Relations

社会をつなげる、
未来を動かす。

PRプランナーによる「PRプランナー宣言」より



主催：公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会 後援：日本広報学会

PRプランナー資格認定制度
検定試験 受験要項 2024年版

いま、社会にはあらゆる情報やコンテンツがあふれ、
その流通チャネルも多岐に渡っています。

このような環境のもと、正しい情報を
多様な価値観をもったステークホルダーに適切に届け、
合意形成を図っていくことの重要性は日々高まりつつあります。

我々、PRプランナーは、幅広いスキルと高いコミュニケーション力、
倫理観をもって、さまざまな課題をパブリックリレーションズで解決するための
知見を有し、この“強み”をより良い社会を築くために役立てていきます。

社会をつなげる、未来を動かす。 私たちはPRプランナーです。

2018年3月1日に開催されたPRプランナー資格制度10周年記念特別シンポジウム「社会をつなげる、未来を動かす ～ A Future Vision of Public Relations」にて、2,300人を超えるPRプランナー有資格者の代表者から、これからの時代への矜持と志を語る「PRプランナー宣言」を行い、「広報・PRの未来像と、これからの時代の要請に応えるPRプランナー像」を提言いたしました。



パブリックリレーションズとは

組織がそれを取り巻く個人や社会との間で
信頼関係をつくり出すための考え方や
コミュニケーション活動をさします

20世紀初頭からアメリカで発展し、日本には1940年代後半に導入されました。その後「PR」という略語は「広告宣伝」と同様の意味で使われるようになり、本来の意味から離れてしまいました。広報という言葉もよく使われますが、ともすると組織の一方的な情報発信と受け取られがちです。パブリックリレーションズが持っていた、『よい関係づくり』という本来の意味を忘れてはなりません。ちなみに『体系パブリック・リレーションズ』（カトリップ他著）では、「パブリック・リレーションズとは、組織体とその存続を左右するパブリックとの間に、相互に利益をもたらす関係性を構築し、維持するマネジメント機能である」と定義されています。

PRプランナー資格認定制度 検定試験とは

企業とステークホルダーの双方向コミュニケーションによる信頼関係の構築が社会的な要請となり、従来のメディアリレーションズやインターナル・コミュニケーションの範疇を超えて、経営上のコミュニケーション戦略、コンプライアンス、IR、危機管理、マーケティング・コミュニケーション、ブランド・マネジメントなど、企業経営の根幹に精通した広報・PRの専門家（PRプロフェッショナル）が求められるようになりつつあります。

そこで、実際に広報・PRの仕事に就いている人、あるいは志望している人に、広報・PRの本質的な概念を理解してほしい、さらには専門性の高い広報・PR業務の社会的認知を高めたい、という使命感から、このPRプランナー試験制度は導入されました。

PRプランナー資格認定制度は、2007年に日本パブリックリレーションズ協会が設立した日本で唯一の広報・PR資格認定制度であり、総合的な基本知識を問う1次試験、専門領域別に知識を問う2次試験、実務的な企画力を問う3次試験の3段階で構成されています。さらに、試験を通して体系的に“パブリックリレーションズ”を履修できる内容となっており、レベルに応じ「PRプランナー補」「准PRプランナー」「PRプランナー」の資格を認定しています。

一人でも多くの優れた「PRプランナー」が誕生することにより、わが国の広報・PR業務従事者の職能意識が高まり、広報・PR活動による社会の新しい発展力が生まれるものと確信しております。

広報・PRの必要性〈企業が求めるPRプランナー〉



PROFILE

NECにて、海外広報からキャリアをスタート。経営戦略、B2B/B2C事業分野におけるコーポレートコミュニケーションを実践。2015年よりコーポレートコミュニケーション本部長として、広報室（メディア対応）、エンゲージメント推進室（インターナルコミュニケーション）、カルチャー変革、社会貢献活動、サステナビリティ推進室、カスタマーコミュニケーションセンター、コーポレートアーカイブ室を統括。2021年2月より現職。金融グループにおける社内外ブランド戦略とカルチャー変革に取り組んでいる。2018年 経済広報センター 企業広報功労賞受賞。日本パブリックリレーションズ協会理事、同協会資格委員会委員長、PRSJ 認定PRプランナー。

PRは、会社を変革し、社会を良くするために、社員全員が取り組むこと

三菱UFJフィナンシャル・グループ

経営企画部 部長

チーフ・コーポレートブランディング・オフィサー 飾森 亜樹子

これまでPRの仕事に携わり、経営マター、事業戦略、国内外の様々な事象、IRやプロモーションとの連携、社外と社内広報の連動、といるいろいろな観点で広報活動を実践する中で、「PRを通じて会社の変革に貢献する」ということを心にとめてやってきました。企業において、広範囲・全方位のステークホルダーを意識してコミュニケーション活動をデザインするということは、経営戦略そのもの。幅広い知識と高い視座、優れたバランス感覚とコミュニケーション能力が問われる仕事です。そして現場の社員から経営層に至る全社に気づきを与え、積極的な取り組みと会社の変革を促すのがPRパーソンの重要な役割です。

PRプランナーとして学び、仲間と切磋琢磨する中で、会社や立場は違っても、日々重要な役割を担っているという様々な刺激を受け、仕事に対する誇りを感じてきました。更に昨今のSDGs、ESG投資など、サステナビリティ経営の考え方は、今後グローバルなPRの世界で更に重みを増し、社会課題を解決する“社会課題起点のストーリー”が鍵となると思います。社会の課題を解決すること、社会を良くすることは、一企業だけで実現できることはなく、より多くの企業や団体のつながりと協働・共創から生まれることです。我々PRパーソン全員で、会社を、そして社会を良くするコミュニケーションを行っていきたくと思います。

PRS J認定 PRプランナー | 2023年8月取得



PROFILE

大学卒業後、私立大学(2大学)と民間企業に勤務。PRプランナー資格取得後、転職活動を行い、現在はコンサルティング業界の広報を担当する。プレスリリースアワード2023(株式会社PR TIMES主催)にて「エンパシー賞」受賞。3児(4歳、2歳、0歳)の父としても日々奮闘している。

一言メッセージ

所属部署の上司 米倉智子さん(PRプランナー)
PRプランナー資格取得者は、「自称広報」といわれる人とは異なり、広報・PR分野の専門スキルを備えたエキスパートだと見なすことができます。そのため、今回書類選考時の評価ポイントの一つにもなりました。当社では社員のスキルアップの一助として資格取得を推奨しており、本資格に関してもメンバーの積極的な取得を促していきたいと思っています。

PRプランナー資格を取得し、
広報・PRのキャリアを築ききっかけに

株式会社NTTデータ経営研究所

コーポレート統括本部 業務基盤部 広報担当 課長代理 宇城 濯さん

2022年のITパスポート試験の合格をきっかけに毎年1つの資格取得を目標に掲げています。2023年は広報活動により自信を持ち、改善を図るために「PRプランナー資格」に挑戦しました。資格取得において最も困難だったことは勉強時間の確保です。1次・2次試験は片道1時間の通勤時間と仕事の休憩時間をフル活用しました。電車の中でテキストを読み、昼食を取りながら1.5倍速で対策講座を繰り返し視聴し、2月の1次試験、5月の2次試験に合格しました。

5月には第3子が生まれ、育児休暇を取得しました。空いた時間で勉強しようと考えていましたが、子どもたちの世話や家事、食事作りなどで毎日忙しく、体力的にも精神的にも厳しい日々が続き、時間を確保するのがさらに難しくなりました。そのため3次の実技試験に向けた勉強は、主に子どもたちを寝かしつけた後の深夜に短時間で効率的に行いました。勉強方法としてはテキストや対策講座を参考にしながら攻略ポイントを押さえ、模擬問題を毎日繰り返し解くことで解法のパターンを覚え、基礎を身に着けました。また生成AIを活用して自身が考えたマーケティング案のチェックや改善を行い、BtoC、BtoBの両方に対応できる幅広い計画を立案できるように準備しました。7月末の試験ではニュースリリース課題が想定よりも複雑で時間がかかり、広報・PR計画の立案(マーケティング課題)を短い時間で作成する必要があったため、非常に焦りました。またマーケティング課題の内容もなじみのない商品かつBtoBとBtoCの両方を対象にしたものでしたが、対策を行っていたおかげで手を止めることなく制限時間ギリギリまでよい計画を立案でき、合格につながったと思います。

PRプランナー資格取得する過程で、学びながら実践することで自信をつけることができました。身に着けた知識を活かすことでプレスリリースやメディアへのアプローチが効果的になり、それが結果的にメディア露出の増加につながりました。その成果が認められ、プレスリリースアワードを受賞し、大いに自信と励みになりました。またPRプランナーの資格取得は、自身のキャリアを築く重要なきっかけとなりました。PRプランナーとして広報に携わるキャリアを今後歩んでいきたいという思いが強くなり、大学から民間企業への転職を決意しました。転職活動ではPRプランナー資格の学びと実践の経験が私の強みとなり、自分がどのように取り組める人物であるかをアピールできたと思います。

今後も広報・PRのプロとしての意識を持ち、さらに成長できるよう勉強を続けたいと考えています。そして、将来的には広報実務だけでなく、広報・PR講座の講師として指導やアドバイスを行うことが1つの夢です。

PRS J認定 PRプランナー | 2023年8月取得

広報・PR実務で培った経験を生かし、
独学で3次試験を突破株式会社サニーサイドアップ パブリックリレーションズ事業本部
3局3部グループ1 水谷 優里佳さん

大学4年の7月に、現在勤務するPR会社から内定をもらいました。広報・PRへの理解をより深めるため、入社までに何か準備できることはないかと調べるなかで、PRプランナー1次試験が8月にあると知り、挑戦しました。大学でのテスト勉強感覚でテキストを読み込んで、広報・PRに関する体系的な知識を学び、在学中に1次・2次試験を突破できました。

1次試験を受けるときから合格を目指していた3次試験は、広報・PR実務3年の要件を満たした、入社4年目の7月に受験しました。日々業務に追われていたため、準備を始めることができたのは試験前1カ月前でした。過去の合格者のブログを見ると、試験問題の難しさと同じくらい「時間が足りない」「テストセンターのPC操作に慣れない」という感想が目につきました。そこで、2つの課題(「ニュースリリースの作成」「広報・PR計画の立案」)に解答する時間と見直す時間を含めた時間配分と、タイプミスなどによる減点をなくすることを重点ポイントとして対策しました。さらに、試験直前2週間の土日を使って、各課題を一通り書き上げる総仕上げを行い、試験当日に備えました。

本番の試験テーマが、いずれも直近の実務で経験した案件に類似していたので、出題者の意図に沿った解答に仕上げられたと思います。改めて実務に即した検定試験なのだと実感しました。

資格取得後は、有資格者であることを提案書のプロフィールに書けるので、新しいクライアントから見たPRのプロフェッショナルとしての信頼や安心感にもつながっているのではと思います。また、PR歴の長い先輩と一緒に仕事をすると、自信を持って意見を伝えられるようになりました。入社前に1次・2次試験の受験勉強をしたことで、パブリックリレーションに関する体系的な知識が身に付いたので、一つ一つの業務の意味や価値に納得して向き合えたのはよかったです。

PR視点を持った発想は幅広い業界で活かせると思うので、これからPR業界を目指す学生の皆さんだけでなく、あらゆるステークホルダーを意識したコミュニケーションを目指す人にも、PRプランナーの資格取得に挑戦することをお勧めします。

一言メッセージ

ブランドコミュニケーション部 広報グループ 中野萌さん
当社にはPRプランナーの資格取得者が複数名在籍していますが、水谷のような20代での資格取得者は社内にも影響を与えてくれていると思っています。当社ではあらゆる資格取得を奨励しており、合格者には受験料や講座受講料等を補助する「スキルアップ支援」制度がありますので、さまざまなステークホルダーから信用や安心を感じてもらえるPRプランナーが増えたらと思います。



PROFILE

2020年に新卒でサニーサイドアップに入社。メディアプロモートを専門に行うメディアユニットとして3年従事。商業施設、美容、グルメ、ITサービスなど幅広いジャンルのPRのほか、企業のコーポレート・サステナビリティのPRや公益財団による啓発活動など、社会性を汲んだ情報発信やイベント対応なども多数担当し、メディアリレーションの構築や企画提案を実施。2023年7月からはPRディレクターとしてプレスリリース作成や戦略設計など、多業種にわたるクライアントの広報業務サポートを行う。

PRSJ認定PRプランナー補 | 2023年9月取得



PROFILE

大学で広告研究会に所属し、広告会社を中心に就活する中で、PR会社に勤める大学の先輩に出会う。話を聞くうち、広報・PRに興味をわき、どんだのめり込む。在学中に、自ら立ち上げたPR会社で活動している。

在学中に フリーランス広報として活躍

法政大学法学部政治学科
4年 ^{いけだ} ^{けい} 池田 桂さん

私がこの資格を知ったのは、就職活動でPR会社の面接を受けた際、採用担当者から「広報・PRを学ぶにはこの本が最適」と公式テキストのことを教えてもらったのがきっかけです。当時は、受験や資格取得を考えていませんでしたが、知識を深めたいと考え公式テキストを繰り返し読みました。読むほどに広報・PRの大切さや奥深さを知ることができました。志望していたPR会社には採用されませんでしたが、広報・PRに携わりたいという思いは強く、起業を考えはじめた頃、PRプランナー補の資格を持っていれば、一定レベルの知識がある証明になるのではないかと思います、受験しました。

1次試験は、大学4年の8月に行われ、約2カ月前から受験勉強を始めました。公式テキストはすでに何度も読んでいたので、理解が足りていない項目をノートに書き出して記憶の定着を図り、100点を狙うつもりで勉強しました。

起業し、広報・PRの仕事始めるに当たって、OG・OB訪問で知り合ったPR会社の先輩や以前インターンをしていた会社に「広報関連でお手伝いできることはありませんか？」と声をかけて回ったところ「SNSお願いできる?」「プレスリリース作れる?」など、いくつか声をかけてもらえました。PRプランナー補の資格を取得したことで、依頼先として信頼してもらえたことが大きかったと思います。現在、個人事業主や中小の会社などプレスリリース作成を含む広報業務を担当し、SNSのフォロワー数増に向けた提案も行っています。個人で仕事をしていると迷うことも多いのですが、そうしたときは公式テキストを開いて、PRの基本を再確認しています。

今後は、「PRプランナー」の資格取得を念頭に置きつつ、まずは今年度の2次試験合格を目指しています。また、このまま仕事を続けるか、PR会社に就職するかなど、自分の進路を明確にしていきたいと思っています。

【参考情報】

情報化・グローバル化が進む中、企業責任が強く求められる昨今、広報・PRに関わる実務領域が拡大し、広報・PRの重要性に対する社会的認識が高まっています。PRプランナー補資格を取得していることは、大学生が就活する際にも、広報・PRの知識を一定以上有している証になるため、就活の武器として活用できると思います。入社後は、スタートダッシュがスムーズにでき、即戦力の人材として活躍の場も広がります。採用する側でも、PRプランナーの資格取得を推奨する企業・団体が増えています。公共入札や業界コンペでも、PRプランナーが在籍していることが要件だったり、安心材料として扱われることがあります。



Assistant Public Relations Planner
Accredited by PRSJ

PRプランナー補

PRプランナー補資格取得者

3,402名

認定条件

1次試験合格、かつ
PRプランナー補審査合格者

広報・PR実務に従事するために必要最小限の基礎知識を有することを認定する資格で、下記の1次試験に合格し、さらに「PRプランナー補」認定申請を経て取得できます。



Associate Public Relations Planner
Accredited by PRSJ

准PRプランナー

准PRプランナー資格取得者

1,509名

認定条件

1~2次試験合格、かつ
准PRプランナー審査合格者

広報・PR実務に必要な専門知識を有することを認定する資格で、下記の1次試験、2次試験に合格し、さらに「准PRプランナー」認定申請を経て取得できます。
(認定にあたって「PRプランナー補」の資格を有している必要はありません)



Public Relations Planner
Accredited by PRSJ

PRプランナー

PRプランナー資格取得者

3,372名

認定条件

1~3次試験合格、かつ
PRプランナー審査合格者

日常的な広報・PR実務を幅広くこなし、かつ広報・PR責任者をサポートする知識・提案能力を有することを認定する資格で、下記の1次試験、2次試験、3次試験に合格し、さらに「PRプランナー」認定申請を経て取得できます。
(認定にあたって「PRプランナー補」「准PRプランナー」の資格を有している必要はありません)

取得者数はいずれも2024年4月1日現在

3つの認定資格

3つのステップで PRプランナーに



お申込み

試験当日

① 仮
申
込
み

「PRプランナー資格Webサイト」の
仮申込フォームで「受験種別」を選択し、
本申込みに必要な「受験コード」を取得

② ユーザー登録

「CBTソリューションズ」で
「マイページ」を作成

③ 本
申
込
み

「CBTソリューションズ」の
マイページから「受験日時・会場」の
選択と、「受験料」の支払い

試験期間内の
予約した日時・会場で受験

Step 1

1次試験

CTB方式による択一問題

前期 2月 / 後期 8月

〈試験期間：16日間〉

合格発表

認定申請

PRプランナー補 資格認定



合格後の
認定申請の流れ

1.申請受付

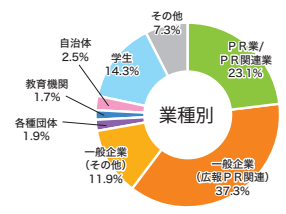
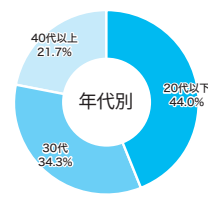
PRプランナー資格Webサイトの「認定申請フォーム」に、必要事項をご入力の上、送信していただきます。
認定申請を完了されますと、ご入力いただいたメールアドレスに確認メールが送信されます。

PRプランナー資格認定検定試験
受験者プロフィール



受験者 15,976名
合格者 11,864名

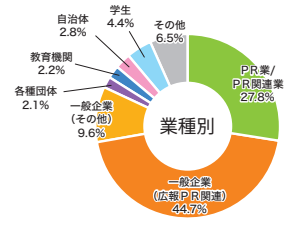
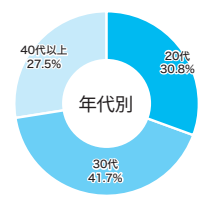
男性:44.6% 女性:55.4%



受験者 7,993名
合格者 6,121名

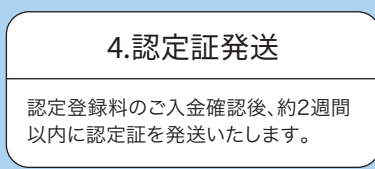
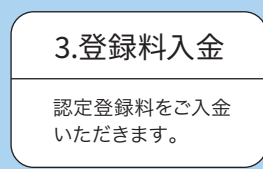
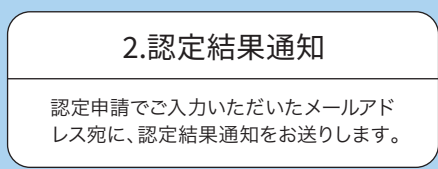
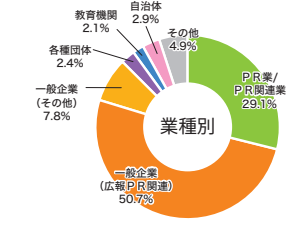
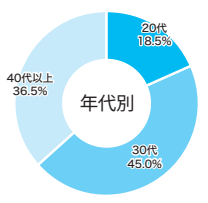
※4科目一括の受験者数・合格者数

男性:48.8% 女性:51.2%



受験者 7,117名
合格者 3,461名

男性:50.9% 女性:49.1%



検定試験について

	1次試験	2次試験	3次試験
受験資格	とくになし	1次試験合格者	2次試験4科目合格者、かつ3年以上の広報・PR関連実務経験者
受験方法	CBT方式 (択一問題)	CBT方式 (択一問題)	CBT方式 (テキスト記述問題)
試験内容	広報・PRに関する基本的な知識 広報・PRの基本、メディアリレーションズ、マーケティングの基礎理論、CSR(企業の社会的責任)、インターナル・コミュニケーション、IR(インベスターリレーションズ)、危機管理広報、行政・団体等の広報・PR等	広報・PRの実務に関する専門知識 ・科目A:企業経営と広報・PRに関する知識 ・科目B:マーケティングと広報・PRに関する知識 ・科目C:コミュニケーションと広報・PRに関する実務知識 ・科目D:時事問題	広報・PRの実務に関する知識 ・課題A:ニュースリリースの作成 ・課題B:広報・PR計画の立案作成 ※課題Bは、「コーポレート課題」もしくは「マーケティング課題」からの選択となります。
試験時間	80分	科目A+B:80分 科目C+D:80分	120分
出題数	50問	各科目25問	各課題1問 計2問
合格基準	正答率70%以上	正答率65%以上 全出題数に対して正答率65%以上、かつ各科目の正答率がいずれも50%以上で合格とします。(全出題数に対して正答率65%未満の場合、もしくは1科目でも正答率50%未満の場合は不合格となります。)	正答率60%以上 評価の配点を、課題A(ニュースリリースの作成)25点満点、課題B(広報・PR計画の立案作成)50点満点とし、課題A・Bの総合評価が45点以上(60%以上)、かつ各課題の評価がいずれも50%以上で合格とします。
一般受験料 ※消費税込	11,000円	17,600円	13,200円 {2025年1月~ 17,600円}
学生受験料 ※消費税込	6,600円	11,000円	—
PRSJ 会員社員受験料 ※消費税込	8,800円	13,200円	11,000円 {2025年1月~ 13,200円}

*種別「PRSJ会員社員」は、協会の「個人会員」「准会員」としてご登録されていますご本人様、または「正会員」および「法人賛助会員」としてご登録されています会社・団体(グループ企業、系列会社・団体を除く)の社員の方が対象となります。

*種別「学生」は、国、地方公共団体および学校法人が設置した学校(教育基本法第6条1、学校教育基本法第2条1、私立学校法第3条)で教育を受けている学生(社会人大学生を除く)の方が対象となります。

*受験料は2023年4月1日現在のものです。今後、変更になる場合がございますので、ご了承ください。

*消費税率が変更になった場合は、受験料も変更になります。

試験項目概要

1次試験

広報・PRに関する基本的な知識

出題数: 50問 試験時間: 80分

- 広報・PRの基本
- 企業経営と広報・PR
- 広報・PR活動のマネジメント
- コミュニケーションの基礎理論
- メディアリレーションズ
- マーケティングの基礎理論
- マーケティングと広報・PR
- ブランドの基礎理論
- CSR(企業の社会的責任)
- インターナル・コミュニケーション
- IR(インベスターリレーションズ)
- グローバル広報
- 危機管理広報
- 行政・団体等の広報・PR

2次試験

広報・PRの実務に関する専門知識

科目A<企業経営と広報・PRに関する知識>

- 経営環境の変化と広報・PR
- CSR(企業の社会的責任)と広報・PR
- インターナル・コミュニケーション戦略
- IR活動の実務
- グローバル広報の実務
- 危機管理広報の実務

科目B<マーケティングと広報・PRに関する知識>

- マーケティング・マネジメント
- マーケティング・コミュニケーションの実務
- マーケティングと広報・PRの動向

■ 認定申請の期限について

各試験合格者の認定申請有効期限は、**試験合格後3年まで**となります。
各試験合格後3年を経過し、各認定資格を取得するには、各試験を再度受験し、合格することが必要になります。
なお、試験合格後3年以降でも上位の試験に進むことができます。

	3年以内	3年以降
1次試験合格後	<ul style="list-style-type: none"> ●2次試験 受験可 ●PRプランナー補の認定申請可 	<ul style="list-style-type: none"> ●2次試験 受験可 ●PRプランナー補の認定申請不可 合格後3年を経過し、PRプランナー補を申請するには、1次試験を再受験し、合格することが必要となります。
2次試験合格後	<ul style="list-style-type: none"> ●3次試験 受験可 ●准PRプランナーの認定申請可 	<ul style="list-style-type: none"> ●3次試験 受験可 ●准PRプランナーの認定申請不可 合格後3年を経過し、准PRプランナーを申請するには、2次試験を再受験し、合格することが必要となります。
3次試験合格後	<ul style="list-style-type: none"> ●PRプランナーの認定申請可 	<ul style="list-style-type: none"> ●PRプランナーの認定申請不可 合格後3年を経過し、PRプランナーを申請するには、3次試験を再受験し、合格することが必要となります。

■ 認定登録料、および認定更新料について

※消費税込

	PRプランナー補	准PRプランナー	PRプランナー
一般	5,500円	8,800円	11,000円
学生	4,400円	6,600円	—
PRPJ 会員社員	4,400円	6,600円	8,800円

※消費税率が変更になった場合は、認定登録料/認定更新料も変更になります。

■ 認定資格の有効期限について

認定資格の有効期限は、取得後3年間となります。
3年経過後は、下記の更新手続きを経て、資格の更新が可能です。

- いずれも、認定申請でご登録いただいたメールアドレスへ、更新のご案内メールをお送りします。
- Webサイトより更新の申請ができます。
- 更新された方には、認定証をお送りします。

認定更新された方は、認定カードを購入できます

PRプランナー補



准PRプランナー



PRプランナー



※認定登録番号、資格取得日、有効期限等記載

出題数：各科目25問
試験時間：科目A+B (80分) / 科目C+D (80分)

科目C〈コミュニケーションと広報PRに関する実務知識〉

- マスメディアとソーシャルメディア
- メディアリレーションズの実務
- 自社メディアの種類と実務
- 広報・PR戦略立案の実務知識

科目D〈時事知識〉

- 政治・経済・国際・社会・文化・芸能・スポーツ
- ※時事問題の出題範囲は、5月実施の試験では試験実施前6カ月(10月~3月)、11月実施の試験では試験実施前6カ月(4月~9月)となります。

3次試験 広報・PRに関する実践技能

出題数：2問 試験時間：120分

- 課題A：ニュースリリースの作成
- 課題B：広報・PR計画の立案作成
「コーポレート課題」、もしくは「マーケティング課題」から、いずれか1つ選択。

※ニュースリリースと広報・PR計画の立案について、それぞれ商品や企業・団体等を取り巻く環境についての前提と課題が出題されます。

公式テキスト 各試験に対応した公式テキストです

広報・PR概説

5月に
2024年度版
発行予定

1次試験対応テキスト



広報・PR業務を行うために必要とする基本知識を網羅した実用書。

A5サイズ / 348ページ
日本パブリックリレーションズ協会 (編)
発行: 同友館 (2023年3月)
2,640円 (税込)

広報・PR実践

2次・3次試験対応テキスト



広報・PR業務に関して、テーマ毎に解説した実務書。

A5サイズ / 384ページ
日本パブリックリレーションズ協会 (編)
発行: 同友館 (2022年4月)
2,860円 (税込)

6月に
2024年度版
発行予定

広報・PR 資格試験 参考問題集

PRプランナー資格認定制度
1次・2次・3次試験参考問題集



実際に出题された試験問題や、出題が想定される1次から3次にわたる試験問題を収録した問題集。

A5サイズ / 185ページ
日本パブリックリレーションズ協会 (編)
発行: 同友館 (2022年12月)
1,760円 (税込)

確実な試験対策に! PRプランナー試験対策講座

各試験に対応した講座を開催しています

1次試験対策講座

Web受講

通期開講 (常時受付)

1次試験の出題分野となる公式テキスト「広報・PR概説」全14章を、自らPRプランナー資格を取得し受験体験のあるベテラン講師が平易に解説します。合格に求められる知識を、パソコンやスマホを利用し時と場所を選ばずフレキシブルに受講できるWeb講座です。

- 全14講座
(各講座 約20~60分)
※全14講座一括受講となります。



2次試験対策講座

Web受講

通期開講 (常時受付)

公式テキスト「広報・PR実践」各章、時事問題への取り組み方の解説を通じて、専門的な知識を検定する2次試験合格に必要なポイントを履修します。合格に求められる知識を、パソコンやスマホを利用し時と場所を選ばずフレキシブルに受講できるWeb講座です。

- 全14講座
(各講座 約20~60分)
※1講座から受講可



3次試験対策講座

Web受講

通期開講 (常時受付)

広報・PRの業務に不可欠な実務スキルを検定する3次試験。本講座は、「3次試験の概要と計画作成の基本」、「ニュースリリースの作成」、「広報・PR計画の立案作成 (コーポレート課題)」、「広報・PR計画の立案作成 (マーケティング課題)」の4講義+3演習と、「過去問の解答例と合格点をとるポイント (ニュースリリース課題・コーポレート課題・マーケティング課題)」で構成され、講義と演習を通じて、3次試験の合格に必要な知識やスキルを習得します。

- 全7講義+3演習
(各講義20分~120分 / 各演習30分~110分)
- 総合コース (7講義+3演習)、
コーポレート課題コース (5講義+2演習)、
マーケティング課題コース (5講義+2演習)
のいずれかを選択して受講



※上記スケジュールは、変更する場合がございます。

※受講の際は、協会Webサイトの講座ページをご参照ください。 <https://pr-shikaku.prsj.or.jp/reference/academy>

参考問題解答 | 1次試験: d | 2次試験 科目A: a | 科目B: d | 科目C: b | 科目D: c

PRプランナー資格取得者が在籍する企業・団体（一部）

アイ・オー・データ機器	三洋電機	中日本高速道路
ACCESS	CCC	西日本高速道路
あさ出版	CMGジャパン	西広
ADKホールディングス	GMOメイクショップ	ニチイ学館
アスキー・メディアワークス	ジェイアール東日本企画	ニチレイ
アド近鉄	JSP	ニッパツ
アド電通大阪	ジェイ・ピーアール	日本気象協会
アリソン・アンド・パートナーズ	資生堂	日本ヒューレット・パッカード
アルプスアルパイン	資生堂ジャパン	ニホンモニター
アルプス システム インテグレーション	シダックス	日本郵政
井之上パブリックリレーションズ	シャープ	野村證券
出光興産	JAXA(宇宙航空研究開発機構)	野村総合研究所
インテグレート	ジヤトコ	バイエルホールディング
エイレックス	ジャパネックス	バイオニア
江崎グリコ	ジュピターテレコム	博報堂プロダクツ
エスケーエレクトロニクス	ジョンソン・エンド・ジョンソン	パーソルテンプスタッフ
SCSK	新東通信	パナソニック
エドベック	スタッフサービス・ホールディングス	パナソニックITS
NEC	SPACECOOL	パナソニック ホームズ
エヌ・ティ・ティ エムイー	住友重機械工業	阪急阪神ホテルズ
NTTアドバンステクノロジー	住友商事	バンダイビジュアル
NTT-ME	住友電気工業	ピーアールコンピナート
NTTコムウェア	学校法人聖学院	P&I
NTTデータ	社会福祉法人生活クラブ	医療法人社団美心会 黒沢病院
NTTデータ経営研究所	積水化学工業	日立製作所
NTTドコモ	セガサミーホールディングス	ビルコム
NTT東日本	セブン&アイ・ホールディングス	ファンケル
エバラ食品工業	セレスポ	富士通
エル・ビー・エス	ゼンリン	富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ
遠州鉄道	ソーシャルワイヤー	フジテレビジョン
Oakキャピタル	ソフトバンク・テクノロジー	ブラップジャパン
大阪ガス	ソフトバンクモバイル	プリンスホテル
大阪市信用金庫	大広	プレイブ
オズマピーアール	大日本印刷	P&Gジャパン
小田急電鉄	大丸松坂屋百貨店	ベネッセコーポレーション
オタフクソース	宝島社	ポーラ・オルビスホールディングス
オムロン	宝酒造	幕張メッセ
オリエンタルランド	ダスキン	マツダ
オリコム	タリーズコーヒージャパン	丸和繊維工業
オリンパス	中部電力	マンダム
オルビス	中萬学院	ミサワホーム
花王	つきプランニング	ミツカングループ本社
金沢工業大学	TMオフィス	三菱総合研究所
キャンノンマーケティングジャパン	TKC	三菱電機
九州電力	TDK	三菱UFJフィナンシャル・グループ
共同PR	TBWA HAKUHODO	ミネベアミツミ
協和キリン	ディップ	明治大学
グラムスリー	デルフィス	メディア・ソリューション
京王電鉄	デロイトトーマツ	森ビル
Kプロビジョン	電通	モルテン
コア	電通国際情報サービス	文部科学省
コカ・コーラ ボトラーズジャパン	電通プロモーションプラス	安川電機
コスモ・ピーアール	電通PRコンサルティング	ヤマハ
コミュニケーションデザイン	電通東日本	ユニアデックス
コムデックス	東京個別指導学院	横河電機
ゴルフパートナー	ドウシシャ	読売広告社
サイバーエージェント	東芝	理経
さくらインターネット	東北新社	りそなホールディングス
サニーサイドアップ	東北電力	良品計画
サミー	トークス	ワールドピーアール
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	トータル・コミュニケーションズ	YKK
産業編集センター	TOTO	YKK AP
サン・クリエイティブ・パブリシティ	TOPPANホールディングス	
サンゲツ	トライベック	
サンスター	トレイントラックス	
サントリーホールディングス	トレンダーズ	
山日YBSグループ	内外切抜通信社	

※50音順
2024年3月31日現在

出典：PRプランナー資格Webサイト
「主なPRプランナー取得企業」

掲載している企業名・団体名は、PRプランナー資格取得されたご本人に、掲載許可をいただいたものです。

PRプランナーの活躍するフィールドは多彩です

1次試験

問題 広報・PRの概念に関する次の記述のうち、最も不適切なものを選びなさい。

- パブリックリレーションズは、企業など組織体とその存在を左右するパブリックとの間に、相互に利益をもたらす関係を構築するためのマネジメントである。
- パブリックリレーションズは、企業など組織体が自己の目指す方向をパブリックへ伝達し、理解を求めると同時に、パブリックの声を聴き、それに基づいて自己修正を図る、双方向性を持ったマネジメントである。
- パブリックリレーションズは、企業など組織体がステークホルダーとの相互理解を深めることで、的確に諸問題を解決し、組織体を機能させていくマネジメントである。
- パブリックリレーションズは、企業など組織体がステークホルダーに対し、あらゆる説得技術を駆使して、業績や活動成果の向上を図っていくことを目的とするマネジメントである。

2次試験：科目A

問題

ステークホルダーに関する次の記述のうち、最も不適切なものを選びなさい。

- 多様なステークホルダーのうち、最も重要なステークホルダーとの関係が良好であれば、他のステークホルダーとの関係も良好になっていく。
- 企業にとって重要なステークホルダーの優先順位を定め、その順位に従って、コミュニケーションを丁寧に展開していく配慮が求められる。
- ステークホルダーは企業との関係性において重層的に構成されており、最も近い従業員、顧客、株主を第一義的に位置づける考え方もある。
- ステークホルダーごとに、企業に対する期待は異なる場合がある。企業からの情報発信を、それぞれのステークホルダーがどのように受け止めたかを知ることは重要である。

2次試験：科目B

問題

マーケティングにおいて、セグメンテーションに用いる変数と、その具体例の組み合わせ(1~4)について、それぞれ適切(O)か不適切(X)かを判断し、その正しい組み合わせを下記の選択肢(a~f)から選びなさい。

【セグメンテーションにおける変数とその具体例】

- 人口動態的変数 … 地域の人口密度
- 地理的変数 … 気候
- 心理的変数 … 価値観
- 行動的変数 … 収入

- 1-O 2-O 3-X 4-X
- 1-O 2-X 3-O 4-X
- 1-O 2-X 3-X 4-O
- 1-X 2-O 3-O 4-X
- 1-X 2-O 3-X 4-O
- 1-X 2-X 3-O 4-O

2次試験：科目C

問題

広報・PR戦略立案の基本である目標設定の要素として、最も不適切なものを選びなさい。

- 具体的であること
- 定型的であること
- 達成可能であること
- 達成期間が設定できること
- 測定可能であること

2次試験：科目D

問題

2022年7月、政府は「GX実行会議」の初会合を首相官邸で開催した。このGX実行会議の目的として正しいものを選びなさい。

- 国土強靱化の推進
- 国内経済の安定的な成長
- 脱炭素社会の実現
- デジタル技術による社会変革

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会について

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会(略称:PRSJ)は、わが国におけるPRの発展と高揚を目的として、業種・職種にとらわれず、広報・PRに深い関心を持つ個人で構成されるユニークな団体です。各委員会・部会では、会員が幹事として活発な活動を展開しており、広報・PR業務に欠かせない研修や交流の場づくりに努めております。

